

Topic 79

シカゴ：変わりゆくブラウンフィールド再開発の 視点（その8）

環境メルマの村上です。

最初(Topic 72)に述べた通り、これまで全7回にわたってお伝えしたシカゴ市のブラウンフィールド(以下 BF)再開発に対する取組みは、「Brownfield Blueprint」という本に書かれたシカゴ市の章をもとにしています。このイントロダクションで、シカゴ市の BF 事業に対する目標が紹介されています。

“環境修復と経済発展を結びつける”

最初にここを読んで、このシンプルだけれど達成することは難しそうな目標に、シカゴ市がどのように取り組んだのか興味を持ちました。環境修復は大切だけれど経済的にプラスの面が無ければ世の中すんなりとは動かない、という現実の中、シカゴ市は何をやったのか？秘訣は何か？

この本を読んでシカゴ市の取組みのポイントは、次の2点にあると感じました。

- ① 多様な関係者間の協力体制
- ② 制度・資金源の整備・活用

この2点に基づき、感想を交えながら全7回を簡単に復習してみます。

多様な関係者間の協力体制

「Brownfield Blueprint」の conclusion においても、シカゴ市の成功の最も大きな要因は、様々な関係者間の協力体制をうまく築くことができたことだと述べられています。組織の枠を超えた協力体制が、全ての取組みを効率的に運ぶために必要不可欠なものだったことがわかります。

シカゴ市内部の各組織間におけるヨコの連携 (Topic 73) はもちろん、州、連邦 (Topic 74, 75) の各機関とのタテの連携も図られました。また、住民や地元の非営利団体 (Topic 76)、地元の大学 (Topic 77)、さらにはコンサルタント会社 (Topic 78) など、多様な組織との協力のもと、シカゴ市は事業を進めました。これらの様々な関係者と協力体制を築いたからこそ、次にのべる制度・資金源の整備や活用がうまくいったのでしょう。

制度・資金源の整備・活用

シカゴ市は、汚染不動産の再利用をとりまく法律上及び規制上の枠組みを改正し、BF 関連事業に民間企業が投資しやすくしました (Topic 73)。また、環境投資する企業に対して貸し出しを行う銀行に対して市の資金を預け入れることによって、企業が融資を受けやすい環境を作りました (Topic 77)。さらには、浄化作業に関するプロセスや浄化後のサイトの運用手法も独自に開発し、運用していました (Topic 78)。

州の自発的浄化プログラム (The Illinois Site Remediation Program) に参加することによってサイト再利用を経済的に実施したり、このプログラムに参加しているサイトに与えられる税制上の優遇措置を活用すること (Topic 74) は、サイトを浄化するモチベーションを喚起したのだろうと感じました。

連邦機関では、一番関係の深そうな環境保護局 (U.S. EPA) のみならず、住宅・都市開発省 (U.S. Department of Housing and Urban Development) から多額の資金を調達したり、米国司法省の犯罪防止のための活動プログラムから資金を調達したり、一見関連のなさそうな機関やプログラムにも目を光らせ、資金を調達しているのには感心しました (Topic 75)。

最後に

各サイトや自治体、さらには国ごとの事情があって、これが正解という一律の解決手法は望めない BF 問題ですが、シカゴ市の成功の秘訣である“多様な関係者間の協力体制”と“制度・資金源の整備・活用”は、個別の手法の根底に流れる普遍的な活動姿勢ではないでしょうか (BF 問題だけでなく、いかなるプロジェクトにも共通しますが...)。

シカゴ市の事例には、各関係者のそれぞれの立場における BF 再開発への取り組みがあふれていました。行政は勿論、投資家から地元住民まで、様々なレベルの関係者の活動を読むたびに、シカゴ市の熱意と手腕、地方自治体にかんがりの権限がゆだねられている米国の仕組みに感心しました。シカゴ市の取り組みをもっと掘り下げて調べてみたいと思ったり、米国の仕組みをもっと知りたいと思ったり、毎回興味の対象は増える一方でした。また、面白いトピックを紹介できる機会があれば幸いです。

坂野のつけたし (banno@ers-co.jp)

BF 問題だけでなく、いかなるプロジェクトにも共通する普遍的な活動姿勢・・・。

先週 (2/15)、国連大学で、国連開発計画 (UNDP) 東京事務所、コンサベーション・インターナショナル・ジャパン (CI-Japan)、世界銀行東京事務所の主催により「地球環境シンポジウム (気候変動・生物多様性のための革命的な資金メカニズム～地球環境に求められる連携～」が開催されました。

世銀さんからは、昨年 12 月のバリ COP13 の場で設立が発表された「森林カーボンパートナーシップ基金 (FCPF)」について、国際協力銀行さんからは、排出権ビジネスの現状について、CI-Japan さんからは、森林保全、生物多様性、貧困問題などの問題に対する現地活動を中心とした NGO の役割について、また、大和証券グループさんからは、エコファンドが NGO や財団などに投資、寄付等して、環境問題の解決に広い視野をもっていることについて発表がありました。

FCPF や排出権ビジネスのはなしを聞いているときには、「こういう地球規模の環境問題にも、お金のおおきな流れが向かっていっているんだなあ。頭のいい人が仕組みをつくっているんだ。でも、現地で実際に手を動かす人たちはいるのだろうか？」と思いました。で、CI-Japan さんの話を聞いて、「現地のひとたちと活動する NGO はとても重要な役割を果たしているんだ。たぶん、技術的な立場から協力活動にかかわる民間の人もいるのだろう。でも、仕組みと現場のあいだに入ってプロジェクトをマネージする部分は大変だろうな・・・」と思っていたら、エコファンドの説明で、「なるほど、そういうところで身近な投資活動、投資会社の果たす役割もあるのか」と腑に落ちました。「ん待てよ、この構図はブラウンフィールドとよく似ているなあ。」

ブラウンフィールド問題は地域規模、一方の生物多様性や地球温暖化への対応は地球規模。規模の違いはありますが、たくさんの人が協力し、経済メカニズムを最大限に利用して問題を解決するという構図はやはり普遍的なのでしょう。

▼参考情報

<http://www.conservation.or.jp/> CI-Japan のウェブサイト (地球環境シンポジウムの配布資料を見ることができます)

<http://www.nalgep.org/ewebeditpro/items/O93F4460.pdf> Brownfield Blueprint の要約版、あるいはそれ以上ととってもいい資料 (pdf ファイル、約 7MB) をダウンロードできます。